

# 長野高専平成29年度計画の策定項目

※ 策定項目については、全国高専一律 掲載頁

## 【1. 教育に関する事項】

<b>(1) 入学者の確保</b>	3～
1 適切な入試実施への取組計画	
2 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画、入試広報の実施計画	
3 女子学生志願者の確保への取組計画	
4 その他	
<b>(2) 教育課程の編成</b>	4～
1 中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置	
2 英語力向上に関する取組計画	
3 学習到達度試験の活用計画	
4 専攻科の充実を図る計画	
5 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画	
<b>(3) 優れた教員の確保</b>	6～
1 近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画	
2 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画	
3 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画(施設整備を含む)	
4 教員FDの取組計画	
5 他機関との教員交流	
<b>(4) 教育の質の向上・改善</b>	7～
1 モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画	
2 アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画	
3 ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画	
4 ICT活用教材や教育方法の開発、利活用計画	
5 特色ある優れた教育実践や取組計画	
6 自己点検評価への取組計画	
7 JABEE認定、機関別認証評価への取組計画	
8 インターンシップの実施計画	
9 企業人材等を活用した共同教育の取組計画	
10 ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画	
<b>(5) 学生支援・生活支援</b>	10～
1 メンタルヘルスについての取組計画	
2 就学支援・生活支援の取組計画	
3 キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組を含む)	
4 高い就職率を確保するための取組計画	
5 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画	
<b>(6) 教育環境の整備・活用</b>	13～
1 施設の有効活用についての取組計画(利用状況調査、スペースの再配置等)	
2 施設整備計画の取組計画(キャンパスマスタープラン・インフラ長寿命化計画の策定等)	
3 アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画	
4 PCB廃棄物の保管や処分についての取組計画施設マネジメントの取組状況	
5 環境配慮への取組計画	
6 男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画	
7 その他	

<b>【2. 研究に関する事項】</b>	16～
1 外部資金獲得への取組計画	
2 産学連携についての取組計画	
3 知財管理についての取組計画	
4 地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)	
5 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画	
6 地域共同テクノセンター等の活用計画	
7 その他	
<b>【3. 国際交流等に関する事項】</b>	19～
1 国際交流協定の締結	
2 学生の海外派遣計画	
3 留学生の受入体制の強化計画(留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)	
4 外国人留学生に対する研修の実施計画	
<b>【4. 管理運営に関する事項】</b>	22～
1 危機管理への対応	
2 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応	
3 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況	
4 教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画	
5 職員に対する研修の実施・参加計画(国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。)	
6 人事交流計画	
7 資産の有効活用方策、IT資産の管理	
<b>【5. 業務運営の効率化に関する事項】</b>	25～
1 一般管理費の縮減取組計画	
2 随意契約の見直し状況	
<b>【6. その他】</b>	26～
1 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	

# 長野工業高等専門学校年度の年度計画に係る実績報告（平成 29 年度）

## 【1. 教育に関する事項】

### 1－（1） 入学者の確保

#### 1－（1）－1 適切な入試実施への取組計画

○前年度に入学した学生の入試成績の下位者に対して追跡を行い、ある程度傾向をつかむことができた。今年度も引き続き同様な調査を実施して、より正確に状況を把握し、今後の入試改革のデータとする。

○外国出身の志願者の入試を行うための整備を行う。

（実績報告）

○前年度に続き、今年度も引き続き入試成績が下位の 5 名の学生について追跡調査を行った。その結果、成績が向上している学生とあまり変化のない学生がいることがわかった。入試時の成績は必ずしも、その後の成績と関係しない。

○今年度の入試で、帰国子女枠を追加した。茨城高専を参考に外国出身者に対する入試整備を検討した。

#### 1－（1）－2 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画、入試広報の実施計画

○中学校関係者を集めた、説明会を行う。

○後援会支部会において、学校PRを依頼する。

○学校PRのための有効なメディアの作成を検討する。

（実績報告）

○中学校関係者を集めた説明会を、本校を含む長野県内の 6 か所で実施した。

○各後援会支部で学校PRのためのパンフレット配布を行っていただいたほか、二つの支部会で中学生とその保護者を集めていただき、入試説明会を実施した。

○学力検査会場を山梨県に設置することについて、沼津高専と校長間で早期実施の方向性を確認し、平成 30 年度から実施することとした。

○PRビデオ作製方法の検討を行った。

#### 1－（1）－3 女子学生志願者の確保への取組計画

○高専機構で作成した女子中学生向けのパンフレットを活用し、PRを行う。

○一日体験入学、科学イベント等に本校の女子学生を積極的に活用し、女子中学生とのコミュニケーションをとる機会を増やす。

（実績報告）

○学校説明会や各種イベントで、高専機構で作成した女子中学生向けのパンフレットを配布し、PRした。

○一日体験入学、各種イベント等に本校の女子学生に参加してもらい、女子中学生とのコミュニケーションをとるようにした。

#### 1－（1）－4 その他

○改定したアドミッションポリシーを公開する。

○入学希望者とアドミッションポリシーの整合を図るよう入試を実施する。

(実績報告)

- 現在、ディプロマポリシー、アドミッションポリシー及びカリキュラムポリシーを改定した。
- 次年度の入試に改定したアドミッションポリシーに沿うよう入試を実施する予定である。

## 1－(2) 教育課程の編成

### 1－(2)－1 中長期(5～10年程度)の高専の将来構想，教育課程の改善の検討及び必要な措置

- キャリア教育を実施し，学生の主体的学習を進める。
  - ・夏季自主研修期間等を利用して，キャリア教育を実施する。
  - ・自治体，企業と連携し，オープン教育プラットフォームを形成し，学内外での教育を実施する。

(実績報告)

- キャリア教育を実施し，学生の主体的学習を進めた。
  - ・夏季自主研修期間等を利用して，一部卒研に参加させるなど，キャリア教育を行った。
  - ・塩尻市と連携し，合宿研修の実施，起業家コンファレンスへの参加など，学外でのキャリア教育を実施した。

### 1－(2)－2 英語力向上に関する取組計画

- 英語プレゼンテーションを授業等で実施する。
- 海外インターンシップ，海外研修を継続する。
- 専攻科または本科の学生を国際会議に参加させる。

(実績報告)

- 英語プレゼンテーションを前期の選択科目で実施した。
- 海外インターンシップ，海外研修を，本科で1～5年まで32名の学生が実施した。
- 専攻科と本科の8名の学生が国際会議に参加し，発表等を行った。

### 1－(2)－3 学習到達度試験の活用計画

- 学習到達度試験の取組，利用を検討する。
  - ・学習到達度試験を受ける学生に準備をさせる。

(実績報告)

- ・平成30年1月に学習到達度試験の実施し，試験を受ける学生は冬季休業中に準備を行った。

### 1－(2)－4 専攻科の充実を図る計画

- 特例適用専攻科修了見込み者に対する学士の学位の授与に係る申請を行う(5月)。
- 特例適用認定専攻科の変更届を行う(9月)。
- MCC，JABEE，特例適用認定への対応を考慮しつつ，本科教務委員会と連携して，カリキュラムの見直しを進める。
- 「マイコン応用」の実施状況を見極めながら，JABEE 対応も考慮し，当該科目の2専攻共通専門科目への展開について上記カリキュラムの見直しの中で検討する。
- 専攻科のエンジニアリングデザイン科目として実施する「機能デザイン」の内容の充実を図る。  
従来不足していた商品企画・コスト・市場等について，部分的に企業に非常勤の講師を依頼する。  
この実施状況を確認しつつ，本校としてのエンジニアリングデザイン教育の検討を継続する。
- グローバルコミュニケーションの能力・知識を養うため，海外長期インターンシップへの参加，及び英語での研究発表等について推進する。

(実績報告)

- 特例適用専攻科修了見込み者に対する学士の学位の授与に係る申請を行った（9月）。
- 特例適用認定専攻科の変更届を行った（9月）。
- MCC、JABEE、特例適用認定への対応を考慮しつつ、本科教務委員会と連携して、平成31年実施に向けてカリキュラムの見直しを進めた。
- 「マイコン応用」の実施状況を見極めながら、JABEE対応も考慮し、当該科目の2専攻共通専門科目への展開について上記カリキュラムの見直しの中で検討した。
- 専攻科のエンジニアリングデザイン科目として実施する「機能デザイン」の内容の充実を図り、従来不足していた商品企画・コスト・市場等について、部分的に企業に非常勤の講師を依頼し、この実施状況を確認しつつ、本校としてのエンジニアリングデザイン教育の検討を継続した。
- グローバルコミュニケーションの能力・知識を養うため、海外長期インターンシップ参加及び英語での研究発表等について推進した。また、国際交流センターとの協力関係の強化を図った。

### 1－(2)－5 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画

- 社会奉仕活動及び自然体験活動の教育への導入を推進する。
  - ・特別活動における社会奉仕活動及び自然体験活動の導入を検討する。

(実績報告)

- 社会奉仕活動及び自然体験活動の教育への導入の推進
  - ・特別活動における社会奉仕活動及び自然体験活動の導入を検討し、次のように実施した。
  - ・「長野市放課後子ども総合プラン」の説明会が4月27日（木）に本校で開催され、36名がアドバイザー登録し、主に若槻地区と三輪地区で活動に参加した。
  - ・4月16日（日）に開催された「第19回長野マラソン」において、審判、補助員として30名の陸上競技部学生が協力した。また、吹奏楽部19名が高等学校の吹奏楽部とともにフィニッシュ会場でファンファーレを演奏し会場を盛り上げた。
  - ・4月29日（土）にTOiGO広場で開催された「表参道芸術音楽祭（長野市主催）」にアカペラ同好会6名が参加した。
  - ・5月4日（木）にTOiGO広場で開催された「表参道芸術音楽祭（長野市主催）」に吹奏楽部11名が参加した。
  - ・6月18日（日）に長野県障害者福祉センターサンアップルで開催された「チーム対抗スポーツ大会」に2名の学生がスタッフとして参加した。
  - ・10月9日（月）に北部スポーツ・レクレーションパークで開催された「第4回ウエルカム三才児まつり」にスタッフとして18名の学生が参加した。
  - ・学生会が主体となり、定期的（月1回程度）に献血活動を行っている。また、学園（工嶺）祭2日目（10月15日）の献血活動では学生および来場者計53名の受付者のうち48名が献血に協力した。
  - ・9月2日（土）にクリーンピア千曲にて開催された「エコマラソン2017」に燃費計測スタッフとして、2名の学生が参加した。
  - ・長野市との連携の取り組みとして、三才駅利用促進（サイまる）活動に次のように学生が参加した。
    - ① 三才駅こども駅長イベント（5月4日）に3名の学生が参加した。
    - ② 三才駅でのふれあい活動（4月16日、5月21日、6月18日、8月20日、9月17日、10月9日、11月19日、12月17日、3月21日）に各回3名の学生が参加した。
    - ③ 三才駅七タイイベント（7月9日）に3名の学生が参加した（インターネット市政放送番組収録）。
  - ・11月11日（土）に古里総合市民センターにて開催された「住民自治協議会10周年記念式典」および「やさしさとふれあいの集い」にスタッフとして3名の学生が参加した。

- ・しなの鉄道北しなの線運営協議会・しなの鉄道との連携の取り組みとして、「しなの鉄道 115 フェスタ（開業 20 周年記念）」イベントにサポートスタッフとして 15 名の学生が参加した。
- ・しなの鉄道北しなの線運営協議会や北しなの線沿線住民と連携の取り組みとして、本校学生 20 名が主体となり、沿線の回遊性を向上させることを目的とした「北しなの線 沿線地域資源探訪マップ（1,500 部）」をつくりあげ、沿線各駅にて配布・設置を行った。

### 1 - (3) 優れた教員の確保

#### 1 - (3) - 1

#### 近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画

○教員の能力向上に資すると認められる研修会に係る情報の収集と提供を行い、参加経費の支援も検討し、積極的な参加を促す。外部機関、民間企業・団体の主催する研修会・セミナーへ教員を派遣し、技術教育及び教育方法の能力向上を図る。

(実績報告)

○研修情報を常に把握し、内容に応じて、グループウェア等で広く情報提供した。また、適任と認められる者に対して個別に情報提供するなど、的確に参加を促す対応をした。なお、業務上の有効性が認められる研修の参加費は原則として校費負担とした。

#### 1 - (3) - 2 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画

○専門科目（理系の一般科目を含む）にあつては、博士の学位を有する者、技術士等の職業上の高度な資格を有する者及び民間企業等の経験を通して高度な実務能力を有する者等、一般科目にあつては、修士以上の学位を有する者及び教育機関の経験を有する者等、優れた能力を有する者の採用の促進を図る。

○毎年実施される校長との面談において、将来の目的やキャリアプランを具体化し、明確化する。

○在外研究員及び内地研究員の各制度に基づく派遣を積極的に推進する。

(実績報告)

○平成 30 年 4 月 1 日付けで、電子制御工学科において、博士後期課程を修了し、産業技術総合研究所の契約職員の経験を有する者並びに現職が長野県南信工科短期大学教授の者、環境都市工学科において、博士後期課程在籍者及び一般科において、博士課程を修了し、信州大学の研究員の経験を有する者を採用した。

○6 月に校長と全教員との面談を実施、各教員の将来の目的やキャリアプランを具体化・明確化させた。

○平成 30 年度の在外研究員に、一般科の准教授を米国イェール大学へ、平成 30 年 4 月 1 日から平成 30 年 9 月 30 日の期間派遣することが決定した。また、平成 30 年度の内地研究員の応募予定者があり、派遣に向けて積極的に支援する方針である。

#### 1 - (3) - 3 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画（施設整備を含む）

○教員公募において、女性限定公募または女性優先公募として実施し、女性教員の採用を一層推進する。

(実績報告)

○今年度もすべての教員公募において、女性優先にて募集を実施した。

○平成 29 年度に引き続き、平成 30 年度においても女性教員を学生主事補及び寮務主事補にそれぞれ

れ1名任命し、学校運営の中心的な役割を担わせ、女性教員の管理職登用への育成を図る予定である。

#### 1－(3)－4 教員FDの取組計画

- 教員の能力向上を目的としたFD研修会を以下の内容で数回開催する。
  - ・アクティブラーニングに関する研修会を実施する。
  - ・低学年の学生指導（クラス運営，生活指導）の研修会を実施する。
  - ・Blackboardの研修会を実施する。

(実績報告)

- 教員の能力向上を目的としたFD研修会を以下の内容で開催した。
  - ・第1回FD研修会「教育・研究活動における著作権」を9月12日に開催した。(参加者42名)
  - ・第2回FD研修会「モデルコアカリキュラムの実践推進」を11月22日に開催した。(参加者65名)
  - ・第3回FD研修会「授業力向上研修（授業にCTT+のスキルを授業に取り入れて、アクティブラーニング型授業へ）」を2月28日に開催した。(参加者26名)
  - ・第4回FD研修会「情報セキュリティ教育の重要性と信大での取り組み」を3月8日に開催した。(参加者70名)
  - ・低学年の学生指導，Blackboardの研修会については次年度引き続き実施を検討する。

#### 1－(3)－5 他機関との教員交流

- 高専・両技科大間交流制度に基づく教員交流を一層推進する。

(実績報告)

- 高専・両技科大間交流制度に基づき、平成29年度は長岡技術科学大学へ機械工学科准教授を派遣した。
- 高専・両技科大間交流制度に基づき、平成30年度の募集をしたところ希望者はいなかった。

### 1－(4) 教育の質の向上・改善

#### 1－(4)－1 モデルコアカリキュラム（試案）を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画

- 一昨年度から導入しているWebシラバスにモデルコアカリキュラムの項目欄の記入を完成する。
  - ・Webシラバスのカリキュラムコードを入れる。(専攻科)・Webシラバスの導入を完了させ、MCC，JABEE，特例適用認定を考慮しつつ，シラバスの内容の見直しを行う。

(実績報告)

- 一昨年度から導入しているWebシラバスにモデルコアカリキュラムの項目を記入し、対応した。(専攻科)○Webシラバスの導入を完了させ、MCC，JABEE，特例適用認定を考慮しつつ，シラバスの内容の見直しを行った。

#### 1－(4)－2 アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画

- アクティブラーニング実施を本年度の課題とし，普及を図る。
  - ・キャリア教育と連動するなどして，アクティブラーニング用機材を活用する。

(実績報告)

- アクティブラーニング実施を本年度の課題とし，実践するよう教員に呼びかけた。

- ・夏季自主研修期間中のキャリア教育などで、アクティブラーニング用機材を活用した。
- ・校内のCTTC+の資格を有するトレーナー教員を講師として、アクティブラーニングのFDを実施した。

#### 1－(4)－3 ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画

○昨年度入力を終えた Web シラバスのルーブリック評価をもとに、学習評価の定着を図る。

(専攻科) ○Web シラバスの利用推進と、モデルコアカリキュラムの科目レベルの明確化、ルーブリック評価を進める。

(実績報告)

○Web シラバスのルーブリック評価をもとに、学習評価を実施するようにした。

(専攻科) ○Web シラバスの利用推進と、モデルコアカリキュラムの科目レベルの明確化、ルーブリック評価を進めた。

#### 1－(4)－4 ICT 活用教材や教育方法の開発、利活用計画

○Blackboard を活用した授業の普及を図り、ペーパーレス化を進める。

○ICT を利用した教材の検討を行う。

(実績報告)

○年度初めに Blackboard を利用する授業を募集して実施し、一部の科目でペーパーレス化を進めた。

○ICT を利用した教材をどのように授業等で使って行くか、検討した。

#### 1－(4)－5 特色ある優れた教育実践や取組計画

○昨年度新設したキャリアデザイン、キャリア演習、海外演習の選択科目を活用し、学生の積極的な学内外でのオープン教育の取組を図る。

○夏季自主研修期間に特色ある学習を展開する。

- ・高学年が低学年を教える学内学習塾を実施する。
- ・企業、自治体と連携した教育を実施する。

(専攻科) ○「学外実習」において、海外長期インターンシップと「実践工学演習」を効果的にリンクさせ、タイ及び台湾等海外におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を検討する。

(実績報告)

○昨年度新設したキャリアデザイン、キャリア演習、海外演習の選択科目を学生便覧に載せ、学生の積極的な学内外でのオープン教育の取組を進めた。

○夏季自主研修期間に特色ある学習を展開した。

- ・高学年が低学年を教える学内学習塾を実施した。
- ・合宿研修など自治体と連携したキャリア教育を実施した。

(専攻科) ○「学外実習」において、海外長期インターンシップのより充実した運営を見据え、「実践工学演習」を有機的にリンクさせ、タイ、台湾、シンガポールおよびカンボジアにおけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開した。

#### 1－(4)－6 自己点検評価への取組計画

○平成 31 年度に発行予定の「自己点検評価報告書(第 12 報)」は、第 3 期中期目標・中期計画の総括を予定しており、その準備を始める。また、今年度開催の参与会において、本校の教育システムの点検評価を行い、機関別認証評価等の外部評価に活用していく予定であるが、その結果も「自己点検評価報告書」に反映できるように検討する。

(実績報告)

○平成 31 年度に発行予定の「自己点検評価報告書(第 12 報)」は、第 3 期中期目標・中期計画の



総括を予定しており、今後その準備を始める。また、今年度2月8日に開催した参与会では、本校の教育システムについて参与会メンバーに事前に資料を送付して説明を行った。この説明に基づきアンケートを実施して、客観的な数値評価を得た。アンケートの集計結果については、機関別認証評価等の外部評価に活用するとともに、「自己点検評価報告書（第12報）」に反映させる予定である。

#### 1-(4)-7 JABEE認定、機関別認証評価への取組計画

- 平成30年度の機関別認証評価受審に向けて準備を進める。
- 「学生が行う学習達成度評価の分析・評価」の報告書に基づき、その活用を検討する。

(実績報告)

- 平成30年度の機関別認証評価受審について、申請書を提出して受理された。自己評価書は平成30年6月に提出予定で、現在、作業を進めている。
- 「学生が行う学習達成度評価の分析・評価」の報告書に基づき、分析・評価の内容を学生自身が反映できる方法を検討している。

#### 1-(4)-8 インターンシップの実施計画

- 本科生の海外インターンシップへの参加を推進する。
- 低学年も対象としたインターンシップを実施する。  
(専攻科) ○「学外実習」において、海外長期インターンシップと「実践工学演習」を効果的にリンクさせ、タイ及び台湾等海外におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を検討する。

(実績報告)

- 海外インターンシップへの参加を進め、本科では35名の学生が参加した。
- 低学年も対象としたインターンシップを実施し、1～3年生10名の学生が参加した。  
(専攻科) ○「学外実習」において、海外長期インターンシップのより充実した運営を見据え、「実践工学演習」を有機的にリンクさせ、タイ、台湾、シンガポールおよびカンボジアにおけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開した。

#### 1-(4)-9 企業人材等を活用した共同教育の取組計画

- 国内外の企業・機関と共同してインターンシップを充実する。
  - ・本科生・専攻科生の実務訓練・学外実習を継続する。(専攻科) ○企業から招聘した非常勤の講師を活用した実践的な技術を教授するためのカリキュラムについて検討する。
- ・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」において、「地域技術者から学ぶものづくり技術（地域産業のニーズに根差した技術力伝承教育）」教育を継続する。
- ・専攻科生の海外長期インターンシップを推進する。

(実績報告)

- 国内外の企業・機関と共同してインターンシップを充実する。
  - ・本科生・専攻科生の実務訓練・学外実習を行い、本科生延べ201名が国内外の実務訓練に参加した。(専攻科) ○企業から招聘した非常勤の講師を活用した実践的な技術を教授するためのカリキュラムについて検討した。
- ・昨年度までの高専機構「企業技術者等活用プログラム」において実施されてきた「地域技術者から学ぶものづくり技術（地域産業のニーズに根差した技術力伝承教育）」教育を継続して実施した。
- ・専攻科生の海外長期インターンシップを推進し、今年度新たにカンボジアへの派遣を実施した。

### 1－(4)－10 ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画

- 本年度もC B Tによる学習到達度試験に参加する。
- e - ラーニング及びI C T活用教育への取組みを行う。
- 長岡技術科学大学のアドバンストコースに引き続き参加する。

(実績報告)

- 本年度もC B Tによる学習到達度試験の日程を組み、実施した。
- e - ラーニング及びI C Tの活用を検討した。
- 長岡技術科学大学のアドバンストコースに参加した。

### 1－(5) 学生支援・生活支援

#### 1－(5)－1 メンタルヘルスについての取組計画

- 学生の心身の健康維持増進及び安全確保に関し、引き続き学内各組織の円滑な連携に努める。
  - ・学生支援委員会、学生相談室及び学年会が連携し、1・3年生を対象として、心身の健康・安全に関する「心のケア講習会」を実施する。
  - ・進路説明会において、保護者を対象とした「学生のメンタルヘルス」に関する講習会を開催する。
  - ・文化祭一般公開日に合わせて、保護者向けのカウンセラー特別相談会を実施する。
  - ・学校指定の精神科医と連携し、学生相談体制の充実を図る。
  - ・教職員を対象とした学生相談室研修会及び学生相談室ミニレクチャを開催する。
  - ・メンタルヘルスに関する講演会の実施を検討する。
- 学生が学生相談室を利用しやすい体制をさらに整備する。
  - ・平成29年度よりカウンセラーが常駐する体制となったことについて、ポスター等を利用して周知し、学生が相談しやすい環境づくりに努める。
  - ・新入生全員とカウンセラーとの面談を設定する。
  - ・担任、課外活動指導教員、教科担当教員及び寮担任等が連携し、問題を抱える学生の指導体制を構築し、様々な観点から学生を見守る。
- こころと体の健康調査の実施と、この結果に基づく情報を関係教員で共有し指導に当たる。
  - ・高専機構から示された『こころと体の健康調査（自殺予防のためのチェックリスト）』を、全学生を対象として実施する。
  - ・上記調査の結果に基づき、問題を抱えた学生の情報を学年及び学科毎に共有し、専門のカウンセラーのアドバイスを仰ぎながら、学年及び学科、相談室、学生支援委員会が連携し見守りと指導を行う。状況により、カウンセラーと学生との面談も設定する。
- 寄宿舎において、寮生対象のメンタルヘルスの取組を行う。
  - ・SNSや命を守るなどの講演会を開催する。
  - ・定期的（月1回程度）に「何でも相談室」を開催し、寮生の状況を把握する。

(実績報告)

- 学生の心身の健康維持増進及び安全確保に関し、引き続き学内各組織の円滑な連携に努める。
  - ・学生支援委員会、学生相談室及び学年会が連携し、1・3年生を対象として、心身の健康・安全に関する「心のケア講習会」を実施した。
  - ・進路説明会において、保護者を対象とした「学生のメンタルヘルス」に関する講習会を開催した。
  - ・文化祭一般公開日に合わせて、保護者向けのカウンセラー特別相談会を実施した。
  - ・学校指定の精神科医と連携し、学生相談体制の充実を図っている。

- ・教職員を対象とした学生相談室ミニレクチャを開催している。
- ・メンタルヘルスに関する講演会の実施を検討している。
- 学生が学生相談室を利用しやすい体制をさらに整備する。
  - ・平成 29 年度よりカウンセラーが常駐する体制となったことについて、ポスター等を利用して周知し、学生が相談しやすい環境づくりに努めている。
  - ・新入生全員とカウンセラーとの面談を実施した。
  - ・担任、課外活動指導教員、教科担当教員及び寮担任等が連携し、問題を抱える学生の指導体制を構築し、様々な観点から学生を見守っている。
- こころと体の健康調査の実施と、この結果に基づく情報を関係教員で共有し指導に当たる。
  - ・高専機構から示された『こころと体の健康調査（自殺予防のためのチェックリスト）』を、全学生を対象として実施した。
  - ・上記調査の結果に基づき、問題を抱えた学生の情報を学年及び学科毎に共有し、専門のカウンセラーのアドバイスを仰ぎながら、学年及び学科、相談室、学生支援委員会が連携し見守りと指導を行っている。状況により、カウンセラーと学生との面談を設定している。
- 寄宿舎において、寮生対象のメンタルヘルスの取組を行う。
  - ・ネットワーク講習会（SNS を含む）を 1 月 13 日（土）に寮食堂にて開催した。
  - ・命を守るなどの講演会（AED&心肺蘇生法講習会）を 12 月 5 日に開催した。
  - ・「なんでも相談室」を、4/20、5/18、6/15、7/13、10/19、11/16、1/18 に開催し、延べ 11 名の寮生の相談を受けた。

### 1－（5）－2 就学支援・生活支援の取組計画

- 学生支援委員会において、経済情勢等を踏まえた上で、就学支援・生活支援を推進する。
  - ・入学料・授業料免除、各種奨学金制度を活用した就学支援を積極的に行う。
  - ・入学料・授業料免除、各種奨学金の選考については、学生に免除制度や各種奨学金を周知し、公正で的確な選考を行う。

（実績報告）

- 学生支援委員会において、経済情勢等を踏まえた上で、就学支援・生活支援を推進する。
  - ・入学料・授業料免除、各種奨学金制度を活用した就学支援を積極的に行っている。
  - ・入学料・授業料免除、各種奨学金の選考については、学生に免除制度や各種奨学金を周知し、公正で的確な選考を行っている。

### 1－（5）－3 キャリア形成支援についての取組計画（女子学生に対する取組を含む）

- 平成 24 年度から運用している進路支援室の充実とキャリア形成支援について引き続き検討を進める。
  - ・進路担当主事補を中心に、低学年からの系統的なキャリア教育の支援体制を引き続き検討する。
  - ・1 年生に対し、進路が決定した 5 年生による進路講演会を行う。
  - ・3 年生向けキャリア教育として、例年どおり企業・現場見学を行う。また、進路が確定した 5 年生による進路講話等を実施する。
  - ・4 年生向けには、キャリアコンサルタントによるセミナー、進路講演会、面接セミナー、卒業生による講演会等を実施する。
  - ・4 年生に対しては、年金説明会及び新社会人ワーキングセミナー等の実施を検討する。
- 女子学生に対する取り組みについては、活躍する先輩等からの情報を収集し周知する。
  - ・国内及び海外で活躍する卒業生等からの情報を本校ホームページや学園だより等で周知する。
  - ・本校女子学生からの情報や下級生に対するアドバイスについて、引き続き本校ホームページ、学園だより及び学生会活動等を通じスムーズに伝達する。

○寄宿舎において、寮生対象の進路講演会を開催する。

(実績報告)

○平成 24 年度から運用している進路支援室の充実とキャリア形成支援について引き続き検討を進めた。

- ・進路担当主事補を中心に、低学年からの系統的なキャリア教育の支援体制を引き続き検討した。
- ・10月14、15日に開催した工嶺祭(学園祭)で、長野高専技術振興会加盟企業による企業展を設け、学生が企業について情報を得る機会を提供した。
- ・1年生に対し、進路が決定した5年生による進路講演会を12月12日に実施した。
- ・3年生向けキャリア教育として、11月9日、10日に企業・現場見学を行った。進路が確定した5年生による進路講話は実施できなかった。
- ・4年生向けキャリア教育として、11月8日～10日に企業・現場見学を行った。
- ・4年生向けの、キャリアコンサルタントによるセミナー(エントリーシートの書き方、面接の心得等)を2月3日に、進学講演会を12月13日に実施した。面接セミナー、卒業生による講演会は実施できなかった。
- ・4年生に対し、卒業生による企業説明会「OB・OG講演会」を平成30年2月21日に実施した。希望する下級生の参加も認めた。
- ・4年生に対して、年金説明会及び新社会人ワーキングセミナー等の実施を検討したが、実施できなかった。

○女子学生に対する取り組みについては、活躍する先輩等からの情報を収集し周知する。

- ・国内及び海外で活躍する卒業生等からの情報を本校ホームページや学園だより等で周知した。
- ・本校女子学生からの情報や下級生に対するアドバイスについて、本校ホームページ、学園だより及び学生会活動等を通じ伝達するよう努めた。

○寄宿舎において、寮生対象の進路講演会を開催する予定であったが、開催できなかった。

#### 1-(5)-4 高い就職率を確保するための取組計画

○本校における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員へ周知する。

○本校における就職率は例年ほぼ100%となっている。この状況を今後も継続するための要点を整理した「平成28年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成29年5月に教職員に周知する。今年度も同様の趣旨で報告書を作成し、教職員に周知する。

(実績報告)

○本校における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員へ周知する。

- ・進路指導に関する意見交換会を10月4日と1月18日に実施し、キャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員に周知した。

○本校における就職率は例年ほぼ100%となっている。この状況を今後も継続するための要点を整理した「平成28年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成29年5月に教職員に周知する。

- ・「平成28年度進路指導状況報告書」の完成が遅れ、9月に周知した。

#### 1-(5)-5 寄宿舎等の学生支援施設の整備計画

○防犯カメラのデータ共有システムの構築を検討する。

○老朽化した設備(浴室ボイラ改修、食堂空調改修等)について再点検・整備を検討する。

○老朽化してきている設備(洗濯機、乾燥機、掃除機など)の更新を検討する。

○老朽化してきている留学生共用室、倉庫、旧ボイラー室などの再検査を行い修繕計画を検討する。

(実績報告)

- 防犯カメラのデータ共有システムの構築を検討した。
- 老朽化した施設改修として、清風寮非常階段修繕工事、寄宿舍地区受水槽修繕工事等を実施した。
- 老朽化してきている設備の更新として、洗濯機 21 台、乾燥機 14 台を行った。
- 老朽化してきている留学生共用室、倉庫、旧ボイラー室などの再検査を行い、修繕計画を検討した。

## 1－(6) 教育環境の整備・活用

### 1－(6)－1 施設の有効活用についての取組計画（利用状況調査、スペースの再配置等）

- 第 3 期中期計画を基本に、施設マネジメント重視の観点から、現有のキャンパスマスタープランの見直し・修正等を継続的に進める。

(実績報告)

- 第 3 期中期計画を基本に、施設マネジメント重視の観点から、現有のキャンパスマスタープランの見直し・修正等を継続的に進めている。

### 1－(6)－2 施設整備計画の取組計画（キャンパスマスタープラン・インフラ長寿命化計画の策定等）

- 毎年見直されるキャンパスマスタープランを踏まえつつ、グローバル人材創出のための教育の充実を支える施設整備計画を検討し、関連予算の獲得を目指す。
- 今後多様化が想定される教育・研究に的確に対応しうる施設整備を図るため、その基礎データとなる学生・教職員等の利用度調査（施設の稼働率調査）を実施する。
- 老朽化した基幹配管の更新計画を進める。
- 放送設備の機能改善を検討する。

(実績報告)

- キャンパスマスタープランを踏まえつつ、グローバル人材創出のための教育の充実を支える施設整備計画（留学生棟）を検討の上、予算要求を行った。
- 今後多様化が想定される教育・研究に的確に対応しうる施設整備を図るため、その基礎データとなる学生・教職員等の利用度調査（施設の稼働率調査）を 7 月に実施した。
- 老朽化した屋外給水配管等の更新を行った。
- 体育館の放送設備の機能改善を行った。
- 老朽化により破損し、プールの水質管理ができなくなったろ過装置について、修繕経費が極めて高額であり、本校の自助努力では修繕できないため、プール設備を閉鎖する見込みとなった。
- 危険対策のための専攻科棟の外壁改修工事を実施した。

### 1－(6)－3 アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画

- セミナー室及び講義室の 2 室に、アクティブラーニング用の机、椅子等を平成 27 年度に配置したので、この 2 室をアクティブラーニング用として使用を促進する。
- ボード等の活用により、ポスター発表形式によるアクティブラーニングを推進する。

(実績報告)

- セミナー室及び講義室の 2 室に、アクティブラーニング用の机、椅子等を平成 27 年度に配置したので、この 2 室をアクティブラーニング用として使用している。

○ボード等の活用により、ポスター発表形式によるアクティブラーニングを推進している。

#### 1－(6)－4 PCB 廃棄物の保管や処分についての取組計画施設マネジメントの取組状況

○PCB 廃棄物の処分予算が付くまでの間、PCB 廃棄物保管庫の定期的な巡視を行い適正な保管に努め、予算が配分されしだい速やかな処分を実施する。

(実績報告)

○PCB 廃棄物の処分費の予算措置がされたため処分を実施した。処分までの間、PCB 廃棄物保管庫の定期的な巡視を行い適正な保管に努めた。

#### 1－(6)－5 環境配慮への取組計画

○電子情報工学科棟の空調整備を計画に基づきさらに推進する。

○学生寮の共用施設の照明のLED化を検討する。

○身近な廃棄物を減少させる取り組みを学生に経験させることにより、環境マインドの醸成を目指す。

○教室清掃状況の調査を実施することにより、教育環境向上の動機付けの一助とする。

(実績報告)

○電子情報工学科棟の空調整備の検討を行った。

○学生寮共用施設の照明のLED化の検討を行った。

○身近な廃棄物を減少させる取り組みを学生に経験させることにより、環境マインドの醸成を目指す。

・落ち葉の堆肥化を学生会に打診したが、年度末に引き受けられないとの回答があった。落ち葉に関しては、次年度以降改めて処分を検討する。

・学園祭において発生した生ごみは、外部への排出をやめ、校内で埋め立て処分している。

○教室美化のため、教室の清掃状況・整理整頓状況を評価する「教室美シュランコンテスト」を実施し快適な教育環境の確保を行っている。

#### 1－(6)－6 男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画

○産休、育休等の必要が出た時には制度を利用できるよう、さらに周知する。

○産休、育休等の教員が在籍する学科への支援内容を検討する。

○平成25年度から実施している女性教員を新規採用した学科へのインセンティブ付与（研究費配分）を活用し、引続き女性教員の採用促進を図る。

○男女共同参画セミナー「生と性の講習会（第3学年）」（長野市との連携事業）を開催する。

(実績報告)

○産休、育休等の必要が出た時には制度を利用できるよう、グループウェアを随時最新の状況に更新し周知した。

○産休、育休等の教員が在籍する学科については、産休、育休等を希望する教員の授業を非常勤で対応し、その取得が容易になるよう配慮している。

○平成25年度から実施している女性教員を新規採用した学科へのインセンティブ付与（研究費配分）は、平成29年4月1日付け採用者までで終了し、平成29年4月2日以降廃止となった。平成29年4月1日付け女性教員の採用はなかったが、引続き女性教員の採用を図る。

○男女共同参画セミナー「生と性の講習会（第3学年）」（第3学年対象、長野市との連携事業）を12月11日（月）に開催し、約200名の学生が参加した。

#### 1－(6)－7 その他

- 寄宿舎の国際交流圏で、留学生や国際交流ステイ学生との交流促進のための生活環境改善意見交換会を実施し、その内容について環境整備の改善等を検討する。
- 様々な本や人に出会え、スピーチ力、読書習慣を身につける一助ともなるビブリオバトルの実施を検討する。
- ブックハンティングツアーを実施し、学生目線で選書した図書を蔵書に加える。

(実績報告)

- 寄宿舎の国際交流圏で、留学生や国際交流ステイ学生との交流促進のための生活環境改善意見交換会を2/21に開催し、その内容について環境整備の改善等を検討した。
- 12月13日にビブリオバトル普及委員会より鈴木有斗氏を講師に迎え、様々な本や人に出会え、スピーチ力、読書習慣を身につける一助ともなるビブリオバトルの体験ゼミナールを実施した。
- ブックハンティングツアーを7月に実施し、学生6名が参加した。学生目線で選書した計53冊の図書が選定され、図書館の蔵書に加えられた。好評のため12月にも実施し、学生8名が参加した。

## 2-1 外部資金獲得への取組計画

- 科学研究費補助金の申請数及び採択件数を増加するための施策を引き続き検討し、実施する。
- 教員の研究活動を把握し、これをもとに各種助成事業への応募を促す。
- 大学等と連携して、外部資金の獲得を目指す。

### (実績報告)

- 研究計画書添削支援を実施し、コーディネータ2名、学内教員7名による研究計画調書の添削指導を実施。(7月1日～10月23日)申請率90%超を目指す。
- 9月20日付けで全教員に対して科研費申請をするよう通知をしている。
- 『研究計画調書の点検・改善策のスキル養成(DVD)』『採択される科研費申請(書籍)』『科研費採択のコツ』『採択される科研費申請ノウハウ 改訂版』を購入し校内で随時貸出している。
- 研究業績の広報に向けて、研究業績を Researchmap へ登録するよう呼びかけた。
- グループウェアへ各種助成事業の公募内容を随時掲示している。
- 大学との連携による共同研究申請は5件を行い、採択は1件であった。

## 2-2 産学連携についての取組計画

- 本校の機器シーズ集をより使いやすく分類・作成して公表することにより、学内外からの機器の利用を促進し、共同研究につなげる。
- コーディネータを活用し、産学連携を促進する。
- 地域企業との交流を活性化させ、産学連携を促進する。
- 技術展示会等へ研究シーズを出展する。

### (実績報告)

- 研究シーズ、機器シーズを充実させ、冊子やホームページに掲載するとともに、各種イベントや産業展において企業への周知を行った。
- コーディネータを活用して、地域企業への訪問によるニーズの掘り起こし教員シーズとの結びつけ、自治体との連携によるプロジェクトの立ち上げ等を行った。
- 中南信を担当するコーディネータを設置し、中南信企業へのPRの強化を図った。
- 長野県、県公設試、金融機関や商工会議所などとの連携強化に努めた。
- コーディネータを活用し、定期技術相談会を設定した。
- コーディネータを活用して、連携を強化することにより、共同研究新規9件、受託研究新規2件、寄付金17件を獲得した。
- 地域企業と協同した地域活性化協議会を2回実施した(7/5、9/27)。3回目を1月17日に開催予定である。

## 2-3 知財管理についての取組計画

- 弁理士に依頼して、教員の特許執筆の指導を受け、特許発掘を行う。
- 出願した特許の申請の審査を行い、取得特許の活用促進を検討する。
- 弁理士による教員の特許明細書執筆の個別指導を実施(7月、9月)。今後6回を予定(10月、11月、12月、1月、2月、3月)
- 出願した特許の申請の審査を行い、取得特許の活用促進を検討する。
- ・出願した特許について審査請求判断を適切に行うため、信州 TLO による特許ヒアリングを実施中。

## 2-4 地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)

- 地方公共団体、経済団体等と連携して社会人の学び直しの講座を実施し、社会ニーズに合わせた



<p>講座の充実を行う。</p> <p>○産学連携及び共同研究成果の発表会を実施して公開する。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○地方公共団体などとして、テクノ財団や地域センター、県職業能力協会、長野市等と連携して社会ニーズに対応した講座を実施している。学外や学内で 50 以上の講座、180 以上の回数を行う見込みである。</p> <p>○「イノベーション・ジャパン 2017 - 大学見本市&amp;ビジネスマッチング」(8月31日及び9月1日)に、電子制御工学科・中山准教授が出展及び発表を行った。(高周波デバイス～薄膜コモンモードフィルタの開発と表皮効果損失の抑制技術～)。「信州産学連携機構との産官学交流会」(10月12日)に、環境都市工学科・古本教授が出展および招待講演を行った。(地震に備える～BCP 策定に向けて～)。</p>

## 2-5 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画

<p>○サイエンス・ツアー(出前授業)は、小中学校の学習指導要領を踏まえたテーマを加え、選択の幅を拡げるとともに内容の充実を図る。</p> <p>○サイエンス・ライブ(公開講座)は、参加者にアンケートを実施し、その結果をHP等で公表するとともにPDCAの中でより充実した内容となるよう検討する。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○サイエンス・ツアー(出前授業)は、小中学校の学習指導要領を配布してテーマを募集し、テーマ総数 28 で実施した。年間の実施件数は 48 件で、1,751 名が受講した。</p> <p>○サイエンス・ライブ(公開講座)は、4テーマを長野高専において実施した。参加者にアンケートを実施しており、3月27日に開催した「バスケ塾」のアンケートを含めて集計して1年間に行ったサイエンス・ライブのまとめとしてHP等で公表する予定である。</p>

## 2-6 地域共同テクノセンター等の活用計画

<p>○地域共同テクノセンターを中心に、研究協力・産学連携係と連携して、技術相談、評価試験、共同研究、受託研究を実施し、外部資金の獲得を促進する。</p> <p>○各種産業展に参加し、PRを図る。</p>
<p>(実績報告)</p> <p>○地域共同テクノセンターを中心に、研究協力・産学連携係と連携して、技術相談、評価試験、共同研究、受託研究を実施し、外部資金の獲得を図っている。</p> <p>・共同研究新規 9 件、受託研究新規 2 件、寄付金 17 件、技術相談 6 件(9月現在)</p> <p>○しんきんビジネスフェア 2017(5月9日)、ぞっこん!さく市(9月30日、10月1日)、諏訪圏工業メッセ 2017(10月19日～21日)、上田地域産業展 2017(10月27日、28日)、産業フェア in 信州 2017(10月20日、21日)</p>

## 2-7 その他

<p>○県内各所で開催される産業フェア等に積極的に出展する。</p> <p>○「青少年のための科学の祭典」と同時開催となった「キッズサイエンス 2017」への積極的な参加を促す。</p> <p>○長野市立図書館との連携貸出サービスについて、実現に向け引き続き協議を進める。</p> <p>○図書館講演会を開催し、長野高専及び図書館利用について、一般市民へPRを図る。</p> <p>○高専ロボコン 2017 関東甲信越地区大会を担当校として開催する。</p> <p>○上記高専ロボコン大会を含む県内各イベントで、長野高専の積極的なPRを図る。</p>
---

(実績報告)

- 県内各所で開催される産業フェア等に積極的に出展した。会場は、諏訪、佐久、上田、長野の各地である。
- 「青少年のための科学の祭典」と同時開催となった「キッズサイエンス 2017」は、前期末試験直後の8月5日(土)・6日(日)の開催であったが、長野高専からは教員9名、補助学生20名が参加し、7テーマを実施した(来場者総数 2,052名・・・8月5日 889名、8月6日 1,163名)。
- 「2017 まつもと広域ものづくりフェア」が7月15日(土)・16日(日)に開催され、長野高専からは教員5名、補助学生19名が参加し、11テーマを実施した(来場者総数 13,813名)。
- 長野市立図書館との連携貸出サービスについて、実現に向け引き続き協議を進めている。
- 図書館講演会「長野県は宇宙県 =天文学最前線と綺麗な星空への招待=」を7月7日に開催し、計118名の参加があった。あわせて、入学案内等を配布し、長野高専及び図書館利用について、一般市民へPRを図った。
- 高専ロボコン 2017 関東甲信越地区大会を担当校として、長野市若里多目的アリーナ(ビッグハット)で10月29日(日)に開催した。来場者募集を積極的に行った結果、観覧応募者総数4,771名となり、当日は台風接近の悪天候にもかかわらず約2,200名の来場者があった。
- 県内の各イベントにおいて、広報グッズを配布するなど長野高専のPRに努めた。

### 【3. 国際交流等に関する事項】

#### 3-1 国際交流協定の締結

○国際交流協定締結校との交流を実施する。

○海外教育機関との学術交流協定締結の可能性を調査する。

(実績報告)

○国際交流協定締結校との交流を実施する。

- ・5月24日(水)に香港 IVE のソーラーカーチームが来校し、本校ソーラーカー研究部と交流した。
- ・7月28日(金)～8月4日(金): 香港 IVE 学生10名を受け入れた。
- ・9月2日(土)～10月13日(金): シンガポールポリテクニク学生1名を受け入れた。
- ・9月18日(月)～9月29日(金): タイテクニカルカレッジ2校より学生30名を受け入れた。
- ・10月2日(日)～平成30年1月31日(水): 現在、リパブリックポリテクニク学生3名を受け入れている。

○海外教育機関との学術交流協定締結の可能性を調査する。

- ・新たな協定締結先の可能性を調査し、平成30年1月5日に台湾の国立聯合大学とMOUを締結した。

#### 3-2 学生の海外派遣計画

○学生の海外渡航を推進する。

- ・学生の国際会議への参加を推進する。
- ・学生の海外研修を推進する。

○海外インターンシップへの参加を推進する。

(実績報告)

○学生の海外渡航を推進する。

- ・高専機構主催のISTS2017に専攻科学生を1名派遣した。
- ・8月24日(木)～8月31日(木): 香港 IVE へインターンシップ及び海外研修として本科学生8名を派遣した。
- ・9月4日(月)～9月17日(日): 台北科技大学へインターンシップとして本科学生5名を派遣した。
- ・9月10日(日)～9月17日(日): ダナン大学へインターンシップ及び海外研修として本科学生4名を派遣した。
- ・9月9日(土)～9月17日(日): ベトナム日本語学校へ海外研修として本校学生4名を派遣した。
- ・9月10日(日)～9月17日(日): カンボジア政府環境省へインターンシップとして本科学生2名を派遣した。
- ・9月11日(月)～9月19日(火): インドネシアの日本企業へインターンシップとして本科学生2名を派遣した。
- ・8月18日(金)～9月1日(金): 中国国際放送局へインターンシップ及び海外研修として本科学生14名を派遣した。

○海外インターンシップへの参加を推進する。

- ・専攻科学生を台湾へ3名、タイへ3名、カンボジアへ2名、シンガポールへ1名派遣した。
- ・本科学生を香港へ5名、台湾へ5名、中国へ6名、インドネシアへ2名、カンボジアへ2名、ベトナムへ3名派遣した。

#### 3-3 留学生の受入体制の強化計画 (留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)

○留学生の受入れ体制の強化のため、インフラ整備の検討を行う。

(実績報告)

○留学生の受入れ体制の強化のため、インフラ整備の検討を行う。

- ・インフラ整備の検討を行っている。

### 3-4 外国人留学生に対する研修の実施計画

○外国人留学生に対する研修の実施計画を策定する。

- ・留学生との意見交換会を実施する。
- ・留学生の研修旅行を実施する。
- ・留学生とチューターとの交流を充実する。

(実績報告)

○外国人留学生に対する研修の実施計画を策定する。

- ・6月14日(水)に第1回留学生との意見交換会を、平成30年2月11日(火)に第2回意見交換会を開催した。
- ・留学生の現地見学旅行(群馬、軽井沢方面)を12月2日(土)に実施した。
- ・留学生とチューターとの交流の充実に努めている。

### 3-5 タイ協働センターの設置及び高専教育モデルの海外展開

○高専機構の高専教育モデルの海外展開の事業のうち、タイを対象とする事業の協力支援幹事校への申請及び長野高専内にタイ協働センターの設置について検討を行う。

(実績報告)

○高専機構の高専教育モデルの海外展開の事業のうち、タイを対象とする事業の協力支援幹事校に指定された。

○これと並行して、長野高専内にタイ協働センターを設置し、高専機構 国際企画室、タイリエゾンオフィス及び協力支援校(熊本・沖縄・長岡・木更津・富山高専で調整中)の支援を受けて下記事業を実施した。

- ・8月7日(月)～8月11日(金) 於:長野高専  
タイテクニカルカレッジ教員7名への電気基礎研修(長野高専担当)
- ・8月31日(木)～9月4日(月) 於:タイ「Suranaree Technical College」  
タイテクニカルカレッジ教員21名へのコンピュータプログラミング研修(熊本高専担当)
- ・9月18日(月)～9月22日(金)  
タイテクニカルカレッジ教員19名への情報リテラシー研修(沖縄高専担当)
- ・10月31日(火)～11月3日(金) 於:タイ「Science Based Technology Vocational College(Chonburi)・Suranaree Technical College」  
タイ協働センター長・副センター長の2名にてタイテクニカルカレッジ教員への工学基礎研修実施に向けた現地の学内設備、数学・物理の教授内容などについての調査
- ・12月6日(水)～12月9日(土) 於:タイ教育省、Office of the Vocational Education Commission (OVEC)  
タイ高専コース入試関係打ち合わせ(長野高専担当)
- ・12月18日(月)～12月23日(土) 於:タイ「Science Based Technology Vocational College(Chonburi)」  
工学基礎研修実施に向けた機械事前操作(長野高専担当)
- ・12月19日(火)～12月21日(木) 於:タイ「Science Based Technology Vocational College(Chonburi)・Suranaree Technical College」  
タイテクニカルカレッジ学生の数学学力レベル調査(長野高専担当)

- ・1月9日(火)～1月11日(木) 於：長野高専  
タイテクニカルカレッジ校長・副校長・学科長7名への学校運営・マネジメント研修（長野高専担当）
- ・1月22日(月)～1月26日(金) 於：タイ「Science Based Technology Vocational College(Chonburi)」  
タイテクニカルカレッジ教員24名への工学基礎研修（長野高専担当）
- ・1月25日(木)～1月30日(火) 於：タイ「Science Based Technology Vocational College(Chonburi)・Suranaree Technical College」  
タイ高専コース入試業務（長野・熊本・沖縄・長岡・木更津・富山高専）

協力支援幹事校として、研修実施、入試業務などの他、タイテクニカルカレッジ学生の学力を踏まえた教材開発も実施しており、初年度の取り組みとしては十分と思われる。ただし、協力支援校と十分な連携を取れなかった点は、次年度以降改善の必要がある。

## 【4. 管理運営に関する事項】

### 4-1 危機管理への対応

- 学生及び教職員に対する危機管理の改善を推進する。
  - ・安全管理意識を年度早期に徹底するため、総合防災訓練を年度早期（6月）に実施する。
  - ・定期的に校内安全衛生巡視を実施し、改善を要する事項について迅速に対応する。
  - ・防災備蓄倉庫の備蓄状況を定期的に確認し、必要に応じて更新・補充する。
- リスク管理室において、緊急対応等が必要な事態の発生に備えるとともに、発生又は発生することが予測される事態に伴う危機に対して、迅速かつ的確に対処する。

（実績報告）

- 学生及び教職員に対する危機管理の改善を推進する。
  - ・総合防災訓練を年度早期（6月）に計画したが、天候不良のため実施できなかった。なお、来年度は梅雨の時期を避け更に早期に実施する。
  - ・毎月1回校内安全衛生巡視を実施し、改善を要する事項について迅速に対応している。
  - ・防災備蓄倉庫の備蓄状況を定期的に確認した。なお、更新・補充・追加、保管場所等については、学校保健安全法により多様な自然災害及び災害別の適切な対応が求められていることから、今後防災訓練のあり方と併せ検討することとなった。
- リスク管理室において、緊急対応等が必要な事態の発生に迅速かつ的確に対処している。

### 4-2 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応

- 各種監査の指摘・改善等に的確に対応するため、会計担当職員の資質・能力の向上を目的として、高専機構主催の研修会等はもとより監査法人所属の公認会計士等による専門的な研修会及び信州大学等他機関が主催する研修会等へ積極的に参加する。また、参加者による報告会を開催し、他職員へ研修事項のフィードバックを図る。

（実績報告）

- 各種監査の指摘・改善等に的確に対応するため、会計担当職員の資質・能力の向上を目的として、下記の高専機構主催の研修会はもとより監査法人所属の公認会計士等による専門的な研修会及び他機関が主催する研修会等へ参加した。
  - ・国立高等専門学校機構会計入門研修
  - ・財務省会計事務職員契約管理研修
  - ・信州大学法人会計研修（エキスパートコース）
  - ・信州大学財務会計実務研修
  - ・会計監査人による地区別研修会
- 参加者による研修報告会を開催し他職員へ研修事項のフィードバックを図った。

### 4-3 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況

- コンプライアンス意識向上と使用ルールの徹底を図るため、教職員に対し公的研究費の不正使用防止に関する説明会を継続的に開催し出席率を100%とする。また、新任教職員には、採用時説明会で周知を図る。その際、アンケートによりその結果を分析し説明内容の改善を図る。
- 決算検査報告事項などの重要事項を学校内専用サイトに掲載し、教職員が常時内容確認の可能な環境とする。

（実績報告）

- コンプライアンス意識向上と使用ルールの徹底を図るため、教職員（新任教職員含む）に対し公的研究費の不正使用防止に関する説明会を開催（4月3日、4月26日、5月18日、8月28日）し、出席率を100%とした。その際、記名式アンケートによりその理解度を分析し説明内容の改

善を図るとともに、質問事項は Q&A として本校電子掲示板に掲載し周知した。  
○公的研究費使用マニュアルを本校電子掲示板に掲載し、教職員が常時内容確認の可能な環境とした。

#### 4-4 教職員のサービス監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画

○定期健康診断及び人間ドックの受診を徹底する。  
○コンプライアンス意識の向上を図る。  
・全教職員を対象として、コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。  
・セルフチェックの結果を確認し、回答内容に応じて適切な助言等を行う等で、全教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

(実績報告)

○定期健康診断及び人間ドックの受診の徹底を図り、全対象者が受診した。  
○医療法人平成会小島病院と契約をし、11月にストレスチェックを実施した。  
○コンプライアンス意識の向上を図る。  
・全教職員を対象として、高専機構のコンプライアンス・マニュアルに沿う形でコンプライアンスに関するセルフチェック(例年11月末)を実施する。  
・セルフチェックの結果を確認し、回答内容に応じて適切な助言等を行う等で、全教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

#### 4-5 職員に対する研修の実施・参加計画(国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。)

○高専機構主催の能力向上に資する研修会に積極的に参加する。  
○国、地方自治体、国立大学法人、民間等外部団体主催の研修会の情報収集を行い、業務に関する知識及び技能の向上に資すると認められる研修会への参加を促進する。

(実績報告)

○高専機構主催の能力向上に資する研修会へ適任者・対象者を業務に優先して以下の研修へ参加した。  
・会計入門研修、東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(建設・環境系)、IT人材育成研修会、高等専門学校教員研修会(管理職研修)、高等専門学校中堅教員研修、学生指導支援実施責任者研修、全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修、情報担当者研修会、情報系教員対象情報セキュリティ講習会等  
○高専機構以外の外部機関主催の以下の研修へ参加した。  
・財務省主催：会計事務職員契約管理研修  
・信州大学法人会計研修(エキスパートコース)、信州大学財務会計実務研修  
・総務省主催：情報システム統一研修、  
・文部科学省情報セキュリティ技術向上研修、国立大学法人等情報化要員研修「インターネットセキュリティ技術(実習編)」  
・全国学生相談研修会、産業保健研修会、事業主・公正採用選考人権啓発推進研修会(人権啓発講座)、全国障害学生支援セミナー「専門テーマ別セミナー」等

#### 4-6 人事交流計画

○本校独自採用の事務職員を含めた信州大学との人事交流を継続する。  
○平成26年度に制度化された高専間職員交流制度の活用を検討する。  
○本校独自採用の事務職員の定期的な内部異動計画を、職員の要望や適性等に留意しつつ、外部機関への出向を含め、幅広いキャリアが育まれるよう引き続き検討・実施する。

(実績報告)

- 信州大学との協議により、平成 30 年 4 月 1 日付けで 4 名の事務職員の人事交流を継続実施した。
- 高専間職員交流制度について、希望者が潜在的にあり、受入側との組織上のマッチングの問題等の課題を踏まえ、引き続き実現に向けて検討している。
- 来年度の異動について、職員の要望や適性等に配慮しつつ、幅広いキャリアが育まれるよう異動計画の検討を進めている。

#### 4-7 資産の有効活用方策, IT 資産の管理

- 校内における備品のリユースを一層推進し、資産の有効利用を図る。
- ソフトウェアライセンス管理を適正に行い、機構本部が有する I T 資産管理システムへの登録を継続的に行う。

(実績報告)

- 使用部署において不必要となった物品のリユースを行った。引き続きリユースを推進する。
- 利用状況調査に基づき、不用の教育研究設備の処分を積極的に進めた。
- IT 資産管理システムの変更に伴う移行準備を進めている。



## 【5. 業務運営の効率化に関する事項】

### 5-1 一般管理費の縮減取組計画

- 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、高専機構の数値目標に沿って、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他については1%の効率化を図る。
- 予算の有効活用のための方策を検討し、予算配分方針を定める。
- 学内営繕等については、緊急性・必要性等を学内委員会等に諮ったうえで、優先度の高いものから実施し、施設保全管理の効率化に努める。

#### （実績報告）

- 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、高専機構の数値目標に沿って、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他については1%の効率化を図った。
- 予算の有効活用のための方策を検討し、予算配分方針を定めた。
- 予算配分においては、校長のリーダーシップを十分に発揮できるよう校長裁量経費を確保した。
- 全校的な視野から教育研究活動のなお一層の活性化を促し、充実・発展を図ることを目的に特別経費を確保した。
- 学内営繕等については、緊急性・必要性等を学内委員会等に諮ったうえで、優先度の高いものから実施し、施設保全管理の効率化に努めた。

### 5-2 随意契約の見直し状況

- 業務運営の効率性及び国民の信頼性の観点から、引き続き、契約に関しては一般競争入札とすることを原則とし、随意契約についての見直しを図り、仕様策定に際しては競争性の確保に留意した仕様とするよう努める。

#### （実績報告）

- 契約にあたっては、一般競争により入札を実施した。また、仕様策定においては、複数業者が入札参加できるよう、市場調査等を通じて競争性の確保に努めた。
- 予定価 250 万円以上の工事契約に関しては一般競争入札とし1者入札とならないよう入札情報の周知を図り、複数の入札参加者を確保した。

## 【6. その他】

### 6-1 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

○以下の土地等の譲渡に向けた手続きを進める。

- ・黒姫山荘(合宿研修施設)土地建物売却一式

(長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山 3884 番 6) 土地 8,547 m<sup>2</sup>(建物 347.79 m<sup>2</sup>(木造 2 階建))

(実績報告)

○一般競争入札を 1 回実施するも応札者がおらず、譲渡の見通しは立っていない。当該施設の存する地域は豪雪地帯で、過疎化などの状況から資産の売り払いは困難な情勢である。

- ・黒姫山荘(合宿研修施設)土地建物売却一式

(長野県上水内郡信濃町大字野尻字黒姫山 3884 番 6) 土地 8,547 m<sup>2</sup>(建物 347.79 m<sup>2</sup>(木造 2 階建))